

# 病害虫発生予報 第8号（11月予報）

和歌山県農作物病害虫防除所

## < 予報の概要 >

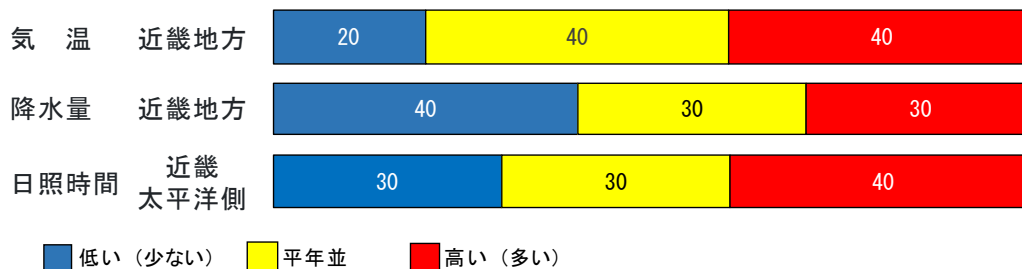
作物名	病害虫名	発生量	作物名	病害虫名	発生量
エンドウ	褐斑病、褐紋病	並	野菜・花 き全般	シロイチモジヨトウ	やや少
	うどんこ病	並		ハスモンヨトウ	県北部 多
	つる枯細菌病	並			県中部 並
	ハダニ類	やや多		オオタバコガ	県北部 多
	ウラナミシジミ	多			県中部 並
ハクサイ キャベツ	黒斑細菌病	並	カンキツ	果実腐敗病	やや多
	アブラムシ類	並		ミカンハダニ	並
	コナガ	やや少	果樹全般	カメムシ類	少～やや少
	ヨトウガ	やや多			

## 気象予報

### 近畿地方 1か月予報（10/22～11/21）

2022年10月20日14時30分 大阪管区気象台 発表		
	特に注意を要する事項	なし。
向こう1か月 10/22～11/21	天候	近畿日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。近畿太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
	気温	平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。
1週目 10/22～10/28	気温	1週目は、平年並の確率50%です。
2週目 10/29～11/04	気温	2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

### 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）



# I. 野菜・花き

## <エンドウ>

### 1. 褐斑病、褐紋病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培における10月中旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率17%、発病葉率0.6%）であった。

② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 多湿ほ場で発生しやすいので、排水を良くする。

② 施設栽培では、降雨が多いと予想される場合は早めにビニル被覆を行う。

③ 薬剤の予防散布に努める。

④ 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

### 2. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培における10月中旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率6%、発病葉率1.0%）であった。

② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 施設栽培では、低温期でも乾燥すると発生しやすい。

② 下位葉に病斑を認めたら薬剤散布を行う。

### 3. つる枯細菌病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培における10月中旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率1%、発病葉率0.0%）であった。

② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 本病は、褐斑病、褐紋病と葉の病斑が似ているので注意する。褐斑病、褐紋病の病斑は日光に透かしても不透明であるのに対し、本病は光が透けて見えることで区別できる。

② 防風ネットは予防効果が高い。

③ 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

### 4. ハダニ類

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培における10月下旬の発生ほ場率は47%（平年33%）、生息株率は20.0%（平年14.0%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

### 5. ウラナミシジミ

(1) 予報内容 発生量 多

(2) 予報の根拠

- ① 県中部の露地栽培における10月下旬の被害発生ほ場率は93%（平成67%）、被害株率は34.0%（平成23.9%）であった。被害さや率は11.2%（平成7.7%）、1花あたりの産卵数は0.32個（平成0.18個）であった。
- ② 11月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 食入加害されたさやは、ほ場の外に持ち出し処分する。
  - ② 主な産卵部位である花や蕾に薬液が十分かかるよう、7～10日間隔で防除を行う。
  - ③ 令和4年度病害虫発生予察注意報第5号（令和4年10月28日発表）を参照する。

## <ハクサイ、キャベツ>

### 1. 黒斑細菌病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 県北部のハクサイ、キャベツにおける10月中旬の発生ほ場率はいずれも0%（平成：ハクサイ7%、キャベツ6%）であった。
  - ② 11月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 降雨前に薬剤を予防散布する。

### 2. アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 県北部のキャベツにおける10月中旬のモモアカアブラムシの発生ほ場率は38%（平成18%）、生息株率6.3%（平成2.7%）であった。ニセダイコンアブラムシの発生ほ場率は38%（平成35%）、生息株率6.9%（平成7.8%）であった。
  - ② 黄色水盤（紀の川市）への10月1～20日の飛来数は、29頭（平成40.8頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 薬剤散布にあたっては薬液が株元の葉裏に十分かかるように行う。

### 3. コナガ

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
  - ① 県北部のキャベツにおける10月中旬の発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率7%、10株あたり生息密度0.0頭）であった。
  - ② フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、和歌山市31頭（平成53.0頭）、紀の川市0頭（平成0.1頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

### 4. ヨトウガ

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
  - ① 県北部のキャベツにおける10月中旬の発生ほ場率は13%（平成1%）、生息株率1.9%（平成0.1%）であった。
  - ② フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、紀の川市4頭（平成7.1頭）であった。



るよう努める。

- ② 令和4年度病害虫防除技術情報第4号（令和4年10月26日発表）を参照する。

## Ⅱ．果 樹

### <カンキツ>

#### 1. 果実腐敗病（緑かび病、青かび病）

（1）予報内容 発生量 やや多

（2）予報の根拠

① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における10月中旬のウンシュウミカン樹上果実の緑かび病発生ほ場率は18%（平成12%）であった。

② 11月の気象予報による。

（3）防除上考慮すべき諸点

① 樹上の発病果や、これに接触している果実は速やかに除去する。

② 収穫前の薬剤散布を励行する。

③ 果実は丁寧に取り扱い、果面に傷をつけない。

#### 2. ミカンハダニ

（1）予報内容 発生量 並

（2）予報の根拠

① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における10月中旬の発生ほ場率は6%（平成12%）、発生葉率は0.8%（平成2.0%）であった。

② 11月の気象予報による。

（3）防除上考慮すべき諸点

① 収穫前の薬剤散布は使用基準に特に留意する。

② 収穫時期まで袋かけを行う品種では袋かけ前に発生状況を確認し、必要に応じて薬剤散布を行う。

③ 薬剤抵抗性の発達を遅らせるため、同一系統の薬剤は年間に2回以上使用しない。

### <果樹全般>

#### 1. カメムシ類

（1）予報内容 発生量 少～やや少

（2）予報の根拠

① 紀の川市粉河の予察灯による10月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが18頭（平成190頭）、ツヤアオカメムシが22頭（平成328頭）であった。

② 有田川町奥の予察灯による10月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが7頭（過去8年の平均111頭）、ツヤアオカメムシが3頭（同578頭）であった。

③ みなべ町東本庄の予察灯による10月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが43頭（平成1,147頭）、ツヤアオカメムシが388頭（平成7,809頭）であった。

（3）防除上考慮すべき諸点

① ほ場内での発生及び被害状況をよく観察し、発生に応じて防除を行う。

- ② 発生がみられるほ場で薬剤散布する場合は、収穫期の散布となるので使用基準に十分注意する。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○ **農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ** <農作物病虫害防除所>

[https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/  
boujyosyo-yosatsujyouhou.html](https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujyouhou.html)

○ **和歌山県ホームページ** <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所の各担当までお願いします。

水稲、野菜、花き

本所（紀の川市、農業試験場内）

TEL 0736-64-2300

カンキツ

有田川駐在（有田川町、果樹試験場内）

TEL 0737-52-4320

カキ、モモ

紀の川駐在（紀の川市、果樹試験場かき・もも研究所内）

TEL 0736-73-2274

ウメ

みなべ駐在（みなべ町、果樹試験場うめ研究所内）

TEL 0739-74-3780